

第1回、第2回、第3回名張市都市マスタープラン改定検討委員会の要旨

第1回改定検討委員会

NO	意見、提案内容など	対応、回答など	備考
1	<p>既に市役所や銀行などが名張地区から希中央・鴻之台地区に移り、名張地区の中心市街地としての機能が低下し、希中央・鴻之台地区に移ってきている。</p> <p>一方、既に計画決定している都市計画道路等の都市施設はそのまま、私権を制限し続けている。そうした都市施設の見直しなどをどのように計画に盛り込んでいくのか。</p>	<p>確かに市役所が名張地区から移転したことは影響が大きい。しかしながら、そのことは既成事実として認識する他なく、複眼的に都市を見たときに、名張地区を希中央・鴻之台地区と違った観点で市街地と位置づけることは可能。</p> <p>例えば、希中央・鴻之台地区の国道沿道にはどこにでもあるチェーン店が立地しており、住民には便利かもしれないが、名張らしさは感じられない。名張地区では、名張らしさを感じられる、例えば大人がデートできるような地域として捉えれば別の価値が見出せるのではないか。【委員長】</p>	
2	<p>マスタープランでは、きれいな言葉が並べられているが、では具体的にどの様の実現されていくのかが全く分からない。</p> <p>平成16年に策定した総合計画で用途指定などについて目標数値を掲げているが、実際には全く進んでいない。</p> <p>何故、これまで実施できなかったかといった理由を明らかにした上で、これから何をどのような形で実施していくかを検討すべきだと思う。</p> <p>過去のことの責任を追及しているのではなく、思い切った施策を打ち出すことが必要ではないか。</p> <p>また、マスタープランは名張で住んでいる市民やあるいは名張で生まれ育って、その後名張を離れた人が誇りを持って名張がふるさとだと感じて貰える様な計画でなければならぬと思う。</p>	<p>方針の段階では具体的な事項について表現することは難しいが、今回の改定において何をやろうとしているのか、市の考え方の柱はあると思うので、次回以降、口頭説明でも良いのでポイントを示していただければ伝えることができると思う。</p> <p>また、一番大切なことは、そうした思いをいかに実現に向けた取組みに展開できるか否かであり、事務素案の第2部実現に向けての部分が必要。【委員長】</p>	
3	<p>名張は、元々の人口が3万人に対して新住民が5万人という構成で、これら新住民が名張をふるさとと感じていないのではないか。</p> <p>いずれにしても、今回のマスタープランはフレーズが多いが、心を打たない。</p>		
4	<p>市民が感動する機会が無くなってきている。歴史関係でも、資料で見れば理解できても、一般の方々には分かりにくい。お金もあまりかけず、小さいことでよいので誰もが感動できる風景づくりなど、見て理解できることをやっていく必要がある。</p>		

第2回改定検討委員会

5	<p>これまでも名張市には土地利用の構想や計画があり、またその進管理としての行政評価制度や個別の開発が市の構想や計画に沿ったものかどうか判断する組織もあったはず。</p> <p>にもかかわらず、民間の開発が無秩序に行われたことや、市もまた、土地利用の方針を持ちながら、ごみ焼却場やノーベル製菓の工場の誘致など具体的な面では方針と異なる施策を実施してきた。</p> <p>過去のそうしたことの反省に立ち、今後具体的にどの様にしてこの都市マスタープランを実現していくのか明らかにするべき。</p>	<p>1章のところで、見直しの背景が書かれているが、このような大きな話ばかりではなく、足元の名張で起こっていることについて、どの様に手当てしていくのかを記載せよといったご意見であるが、だからこそ、2部が重要であると考えている。つまり、いくら絵を描いたとしても、それを着実に進めていくシステムや仕組みがないと結局絵に描いた餅になってしまう。例えば、大阪の宗右衛門町などでは、地域住民や業を営む人が集まって、まちづくりビジョンの策定に取り組んでいる。その中で、地域としてどんな街にしていきたいか合意を形成し、例えば宗右衛門町では風俗店の排除が合意され、現実にその動きが進みつつある。</p> <p>したがって、名張市においても住民の方が話し合う機会をつくって、地域でどの様な街にしたいか合意した上で、その実現に向けて、民間事業者の協力や都市計画手法の適用を検討するような仕組みを構築するといったような、今回の都市マスタープランに書いたものが絵に描いた餅にならないような、そうしたシステムの構築が最も重要であり、事務局としての案を提示してもらいたい。【委員長】</p>	
6	<p>都市マスタープランを総合計画や他の様々な計画と継続的に整合させるのは難しいのではないかと。そもそも様々な計画は、首長が変わることなどによって、その内容が変わってくるので、そのことも考えるとそれぞれの計画で継続性を担保し、整合を図るのは難しい。</p>	<p>典型的な例として、大阪の和泉市では、自治基本条例（案）を3年かけて市民が参画する委員会をつくった。</p> <p>策定期間の途中で選挙があり、現職の市長が敗れ新しい市長に変わったが、この条例案が行政や市長が主導でつくったものでなく、市民がつくったものであるということから、首長が変わっても条例案が継承される見込である。したがって、この都市マスタープランも徹底的に市民参加でつくれば、今後色々な状況の変化はあっても恐らく継続されることになるのではないかと。【委員長】</p>	
7	<p>14地区のまちづくり組織にそれだけのことを期待しても、土台がしっかりしていないところに載せても潰れてしまう。まちづくりに対する市の考え方と現実の乖離、理想と現実の違いをもっとしっかり見つめるべき。</p>	<p>私は名張とのお付き合いが始まった今、しっかり根底から組み立て直そうという話をしている。例えば、郊外の大規模店にみんなが買物に行ったら、既成市街地の店は潰れるに決まっており、それが将来そこに住む住民の不便に繋がる。そこを解決しようとするなら、市役所も頑張りなければならないが、消費者や生活者も市役所と同じ方向で生活行動をとる必要があり、その実現に向けた取組みの組み立てが必要である。【委員長】</p>	

8	名張は、人口が8万5千人にまでいって頭打ちになり、その後減少している。なぜ人口が減っていくのかについて、掘り下げて検証する必要がある。	
9	旧町では、昔は1万2千人程度だったが、今は8千人を割っている。建物も耐用年数を過ぎて、非常に危険な状態である。	そのことについては、事務素案の中で、市として実施していきたいことを順番に例示している。当然、事業実施の前提として住民の合意が必要であることから、広く合意が必要な事業から、合意形成がうまくいかなかった場合には小規模な合意で出来る事業について例示している。【委員長】
10	人口が減ることばかり考えているが、どうやって増やしていこうかといった希望が示されていない。例えば学校の国際化などといった教育環境の特化した整備など、名張で住むことのメリットを提示するなど、希望のある都市計画であって欲しい。また、名張市全体の将来像を描いたイメージ図があると分かりやすい。	恐らく、そうした意見を反映したマスタープランをつくらうとすると、それは都市計画あるいは都市計画室の越権行為になると思う。しかし、そうした越権行為は、教育に限らず、農政の分野や他の分野に対しても意見を述べるなど、行っていかなざるを得ないと思う。 【委員長】
11	名阪と名張を結ぶ高規格道路がないのが最大の問題でそれが産業の振興や観光に影響している。今回の都市マスタープランでそのことも書き込むべきではないか。	国道368号の4車線化については既に事業採択を受けている。【委員】これが完成すれば伊賀市、或いは名阪国道とのアクセスは向上すると考えており、全く担保性のない高規格道路を計画に記載するのは不相当と考えている。【事務局】今ある構想を、着実に進めるとのこと。【委員長】
12	この事務素案策定に関して、市民の方々の意見はどの程度入っているのか。基本的には委員の皆さんが発言していることは、この素案に書いてあると思うが、地区別構想だけではなく、ここに記載されている大きな方針についても市民の意見が反映された方が良くと思う。	事務素案は、庁内のみで議論し作成したもの。この委員会での議論を経て、市民の皆さんのご意見を頂く機会として地区懇談会やパブリックコメントを予定している。今後、地域で策定する地域ビジョンとこのマスタープランが双璧の計画として、実現に向けて取組むことになる。【事務局】
13	防災についての記述が少ない。住宅の耐震化については記載されているが、ハザードマップや避難誘導、避難場所といったことについて触れられていない。別途防災計画等で書いていると思うが、都市マスタープランでも災害に強い街づくりといった観点で触れる必要があるのではないかと。安全、安心のまちづくりは、大きな柱なので、ビジョンや方針で少し書いておくほうが良いのではないかと。	ソフト面の取組みは、第2部で整理する。別の観点では、今までは、国や県、市が住民を守るといった発想であったが、それには限界があり、市民の皆さんが災害に対して準備をする必要がある。その意味でも市民の皆さんに意識を変えて頂く大きな切り口として防災があると思う。【委員長】
	【委員長】 暮らしの魅力が名張の一番いいところで、それを磨き上げることと多様な居住が選択でき、自分のライフスタイルを実現できるまち、それをサポートするような都市計画であり、まちづくりでありたいということについては、委員の皆さんの合意が得られている。マスタープランなので個別具体のことを記述することは出来ないが、個別具体の施策に繋がる考え方が書いてあるといった、次の段階に進める記述となっているかどうかという視点で事務素案を検証し、もしそうっていないと感じたところがあれば早急に連絡頂きたい。	

第3回改定検討委員会

14	プラン全体に言えることであるが、同じ 番号で列記してあることにレベルの差がある。方針として挙げるべきこととその手順が混在している。また、都市計画としてやれることとやれないことが混在している。都市計画としてやれないことは記載する必要がないというのではなくて、整理しないとわかりにくい。	事務局で整理すること。【委員長】	
15	将来の都市構造とまちづくりの方針で書かれていることが、都市施設整備の方針でも書かれているが、この意味は何か。	前者は拠点の質を高めるものとして都市施設に限らずすべてを記載し、後者は都市施設に限って再掲している。	
16	交通に関して結節の整備といったことが抜けているのではないか。例えばバスの乗り継ぎ拠点などをつくって、乗り継ぎも含めて交通ネットワークを構築するといったことが記載されていない。	すべてのまち、すべての地区で交通結節点を設けていくといったことは考えていない。各地区に対して少なくとも1点公共交通がタッチすることを市の責任で行い、そこまではコミュニティ交通などで繋いで下さいということ、公共交通がタッチするところからは駅までは公共交通を確保するという考えとしている。	
17	7 景観形成、8 地域の振興、9 人にやさしいまちづくりの推進が都市施設整備の方針に入るのは違和感がある。必要性は認めるが、1番から6番までとは異質なものである。	7 景観形成、8 地域の振興、9 人にやさしいまちづくり、は都市施設整備に収まるより大きなことなので章に格上げすることも含めて再編集を事務局に任せる。【委員長】	
18	二部の実現に向けては、わかり難い。 結局、市民が都市計画に対して何をやれば良いのか見えない	二部について、全体として市民にお願いすることと市が責任を持ってやることの整理を明確にする必要がある。市民にお願いすることは、私の経験では2つあって、その一つは市民の目指すべき方向の一本化、他の一つは財政的に市が出来ることには限界があるので、ある一定水準以上については、市民も行政と一緒に汗をかくてくれませんかということ（協働）。そこを整理することと、具体的に市民に議論して欲しいことを例示してある部分については、レベルが違うので参考資料に回すなどして、判りやすくする必要があるので。その辺りも事務局で整理すること。【委員長】	
19	地域別構想を読んだとき、市民に投げってしまうような印象を受ける。現状のまちづくり活動は、脆弱な基盤の上で行われており、市の積極的な支援が不可欠。安心してボランティア活動が出来る基盤が出来ていない現状からすると、市が責任を持ってやりますからということを引きちんと記載すべき。	名張でも地域によって温度差があるはず。昔ながらの地域では元々自分たちでやってきていて、今更協働という感覚なのは。一方、ニュータウンでは今まですべてお任せできて、急に協働といった感覚。いずれにしても、NPOでもいつまでも市の支援は得られないというのが協働の基本的な考え方。その辺りの共有化が図れてないと、ここに書かれている文章の読み方が変わってくる。	

2 0	<p>地域づくりが、地域から盛り上がったのではなく、行政がまくってきて地域が仕方なくやりかけているというところに問題がある。</p> <p>そうしたことから、活動に対する市の裏付けが欲しいといった発想になる。いずれにしても、まだ地域組織は成熟していない。そうした中で、地域がプランをつくるのは市がどこまで関われるかにかかっている。</p>		
2 1		<p>まず、市がやるべき方向性として都市の構造部分をやる。ここを拠点にする、これを軸とする、といったことは市が責任を持って行う。その拠点の中で個別具体にどのようにしていくかについては時間をかけて、地域の方々と一緒に考えるといったことを二部の最初にきちんと書き込み、明確に説明するとその後の展開が非常にわかりやすい【委員長】</p>	
2 2	<p>二部で記載されている地域別構想というのは、一般に言う都市マスの地区別構想とは異なる地域ビジョンのことなので、そこはきちんと整理する必要がある。</p> <p>そうすると、順番としては、充実した前文があって、その後に市民参画、そして地域別構想という構成が妥当である。</p>		
2 3	<p>地区懇談会で最も難しいのは名張地区。道路も下水も1番遅れている。1番日が当たらず放っておかれた地区。都市計画道路も40年間手付かずで置かれ、建築制限が継続している。そうしたことに對してどの様に対応していくのか。また、危険家屋も多いが、安い賃借料で住み続けている方がいる事情もあり建物の更新が出来ない。</p> <p>一方で、下水の受益者負担金が重くのしかかっている。</p> <p>また、下水整備が遅れていることで、今建物を建てようとする汚水処理に2重投資が必要で、それが原因となってまちの中心部ですら更地のまま残っている。</p>	<p>名張に限らず多くの都市が全く同じ状況である。</p> <p>しかし埼玉県上尾市のように、行政のマネージメントでうまく言った例もある。【委員長】</p>	
2 4	<p>町屋に対して良いイメージを持ちすぎている。重要なものや整然とした町並みも無いのに町家で人を集めようとするのは無理。しかし、歩いて暮らせる、学校が近い、医者がある、買物ができると、住むには適している場所なのでそうした方向で考えるべき。</p> <p>日本では、都市計画が後手後手に回って、全く出来ていない。</p>	<p>だからこそ、5年間くらいは話をする必要がある。本当に一旦更地にして新しいまちにしていくのか、それとも少しずつでも昔の町並みを回復させていくのか、地域で時間をかけて議論する必要がある。【委員長】</p>	
2 5	<p>マスタープランの進行管理を市民の代表などを入れて行うべき。</p>	<p>マスタープラン独自ではないが、総合計画の施策評価システムと連動して行っていく。そこには外部委員も入っている。</p>	

26	資料編の76ページに空き地の農地化といった記載があるが、こんなことを考えているのか。	家庭菜園を想定しているので、表現を変更する。	
27	防災で気になったのは、他の都市では豪雨対策についてかかれていることも多いが、名張では山林等を守ることで担保しようと考えているのか、それとも下水の整備を行うのか。	名張では、近年史上最大の時間雨量を観測したが、大規模な浸水は発生していない。下水は雨水幹線に代わる都市下水路が整備済みで、枝線の機能を併せ持つ築瀬水路の改修に防災の観点を加えることは必要と考える。	
28	もう少し大きな観点で防災を捉えるべきではないか。時間雨量100mmを超えるゲリラ豪雨や地震もある。治山治水事業について国や県に確認して、それをここでも計画として入れておくべき。	具体的には37、38ページの河川や水路で災害対策も強調して書き加えるといった対応となるのでは【委員長】	
29	災害については、これからは減災といった考え方も重要で、全部行政だけでは守れない。時間雨量100mmから守ることは出来ない。したがって、ここでも市民との協働といったことが出てくる。現状として書けることは書いて、市民が対応すべきことについて知らせるべき。		
30	地球温暖化対策、あるいは循環型社会の創造、あるいは資源を活かした、新しい産業の創出といった観点でバイオマス構想が入れられないか。	先程、第7章の7, 8, 9を章立てでというところに環境への配慮といった章も加えてはどうか。【委員長】	